

中間報告書（平成 22 年度）

提出者 田窪行則

提出年月日 平成 23 年 3 月 29 日

【プロジェクト名】

和文 南琉球の言語と文化の記録と保存

英文 Documentation and preservation of the languages and cultures of Southern Ryukyu

【メンバー構成】

研究代表者 田窪行則

幹事 元木 環 京都大学学術情報メディアセンター助教 電子博物館コンテンツ作成統括、写真担当

河原 達也 京都大学学術情報メディアセンター教授 電子博物館プログラム統括

岩崎勝一 UCLA 教授 池間方言、言語生活

大野 剛 アルバータ大学 准教授 池間方言、映像担当、言語生活

林 由華 京都大学文学研究科 GCOE 研究員 池間方言、書き起こし

平井芽阿里 京都大学文学研究科 GCOE 研究員 儀礼研究、宗教生活

車田千種 スタンフォード大学 D2 童話制作

花城千枝子 ひよどり保育園 園長 童話制作

仲間博之 宮古高校 前校長 コーディネータ 池間古歌謡研究

白田理人 京都大学文学研究科 M1 池間方言、書き起こし

高橋三紀子 京都大学学術情報メディアセンター教務補佐員 童話制作

永田奈緒美 京都大学学術情報メディアセンター教務補佐員 童話制作

上田寛人 京都大学学術情報メディアセンター教務補佐員 電子博物館制作

岩倉正司 京都大学学術情報メディアセンター教務補佐員 電子博物館コンテンツ作成

【ねらいと目的】（600 字程度）

本研究会は、消滅の危機にある琉球、とくに宮古島を中心とした南琉球の言語と儀礼を研究し、同時に、それらを映像・音声として記録し、研究者同士、また現地の人たちと共有するための電子的空間を構築することが目的である。この電子空間は博物館として機能し、展示空間と格納空間を持つ。収集された映像・音声は格納空間から展示空間に移され、展示のために加工されることで、情報価値を増していく。展示されるコンテンツとしては自然談話、儀礼だけでなく、方言で書かれた童話絵本、方言講義、芝居などの言語作品も含む。

【活動の記録】

2010 年 11 月 22 日～25 日 宮古島市西原にて方言調査および絵本の編集（田窪、元木、花城、仲間、高橋）

2010 年 12 月 3 日～14 日 宮古島市西原にて方言調査および社会言語学的調査（岩崎）

2011年1月6日～11日 宮古島市西原にて方言調査および絵本の編集（田窪、元木、花城、仲間、永田）  
 2011年2月25日～27日 宮古島市西原にて絵本方言朗読の録音（元木、花城）

**【成果の概要】**（800字程度）

H22年度 電子博物館コンテンツのうち、ひよどり保育園園長花城千枝子氏創作による方言による読み聞かせ絵本を出版可能な形に修正し、作者であるによる録音を行って、CD付きの絵本として出版した。これは子、親、祖父母の三世代間（あるいは曾祖父母を含めた四世代）の言語の伝承を助ける目的で創作されたものである。絵本は紙芝居形式で作られ、絵、読み聞かせの文章、花城園長の方言朗読CDからなる。読み聞かせの文章は、宮古島西原で行われている宮古語池間方言で語られている。通常、口頭語としてのみ存在している方言により文章を書くのは非常に困難を伴う作業である。現在口頭語として話されている池間西原方言は、非常に多くの日本語共通語からの借用語を含み、また、近隣の威信言語である平良地区の方言からの影響も多い。このため、西原で話される池間方言での物語の創作は文体を創造することを意味する。我々は、花城氏の創作をたたき台にして、この方言を母語とし、祖父母に育てられたためより純粋な方言形式を記憶している前宮古高校校長仲間博之氏とすべての文を検討し、非常に自然な池間方言による物語を完成させた。この絵本は学術情報メディアセンターコンテンツ作成室の高橋氏の綿密な調査に基づく美しい絵も相俟って、話の語り手である60歳代以上の祖父母たちの子供時代の生活が再現された物語になっている。この絵本により、今の20～40歳代の父母たち（聞き取りは可能だが、話す機会がない世代）が祖父母、曾祖父母の暮らしとことばを子供に伝えるための手段の一つを提案する事ができる。

**【通信欄】**

（事務局記入欄）

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	(千円)	実績額